



平成 26 年 度

食肉衛生検査業務概要

第 30 集

(平成 25 年度実績)

安全・安心・おいしい

かごしま黒豚と鹿児島黒牛



鹿児島市食肉衛生検査所

はじめに

平成26年5月、将来的なHACCPの義務化を見据えつつ、段階的にHACCP導入を図る目的から、と畜場法施行規則が改正されました。

と畜場の衛生管理につきましては、腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒事件の発生を受け、大幅な規則改正が平成9年に行われ、解体工程への標準作業書、記録点検及び検証等の新たな手法、概念の導入により衛生面の飛躍的な向上がなされました。

今後も更なる衛生的な食肉の提供に寄与できるよう、当食肉衛生検査所としてもHACCP導入に向け、万全な協力体制を構築するよう心掛けております。



さて、平成25年12月から、特に鹿児島県では豚流行性下痢症（PED）が大流行し、多大な被害がもたらされております。発生初期の段階では、防疫体制を強化することにより、蔓延防止が可能かと思われましたが、結果としては、長期的な対策が必要とされました。PEDにつきましては、口蹄疫等の重要疾病に比較すると法的規制が弱いということから、畜産従事者一人一人の心構えと行動がその防除には必要不可欠と思われまます。

併せて、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）における食肉に係る関税撤廃や飼料高騰等の様々な問題が畜産関係者を震撼させる中、個々の意識を高く保ちつつ、関係団体が相互に協力し合うことがより必要とされる時代であることを痛感いたします。

このような状況の中、当食肉衛生検査所におきましても、と畜場や食肉処理場関連の従事者は勿論のこと、畜産関係の従事者の方などへ対しましても、機会あるごとに「安心・安全なる食肉の供給」の必要性、重要性を伝達できるよう、取り組みの一層の推進を図るため、日々、業務にまい進しているところであります。

ここに、平成25年度の食肉衛生業務概要を取りまとめましたので、ご高覧いただき、ご指導、ご助言など賜りますれば、幸いに存じ上げます。

平成26年11月

鹿児島市食肉衛生検査所
所長 宮永 昭二

目 次

第1章 総 説

1 沿革	1
2 所在地	2
3 組織機構	3
4 職員構成	3
5 事務分掌	3
6 検査手数料等	4
(1) と畜検査手数料	
(2) と畜場使用料・とさつ解体料	
7 検査所管理棟平面図	5
8 主要検査機器	7

第2章 と畜検査業務の概要

1 食肉衛生検査業務状況	8
2 と畜検査頭数	
(1) 獣畜の年度別と畜検査頭数	10
(2) 牛と豚の年度別と畜検査頭数の推移	10
(3) 獣畜の月別と畜検査頭数	11
(4) 牛と豚の月別と畜検査頭数の推移	11
(5) 牛と豚の出荷地別と畜検査頭数	12
(6) 豚の湯剥ぎ、皮剥ぎ年度別と畜検査頭数の推移	12
3 と畜検査結果に基づく措置	
(1) 獣畜のとさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数	13
(2) 牛と豚の年度別全部廃棄頭数の推移	14
(3) 牛と豚の全部廃棄等の月別発生頭数	15
4 精密検査実施状況	
(1) 牛と豚の枝肉の拭き取り検査	16
(2) 抗菌性物質の残留検査	16
(3) 牛の伝達性海綿状脳症の検査	17
5 その他	
(1) 衛生講習会	18
(2) 普及啓発	18

第3章 付 表

1 調査・研究部会のテーマ	19
2 職員の技術研修会等	19
3 食肉センターの概要	20

第1章

総説

第1章 総説

1. 沿革

- 明治 42年 7月 鹿児島郡伊敷村字松木川原に市営と畜場設置、開場
- 大正 9年 10月 伊敷村の一部合併により経営権を伊敷村へ移譲
- 13年 7月 伊敷村下伊敷 557 - 2 に、と畜場を移転
『伊敷村営屠場』として開場
- 昭和 25年 10月 伊敷村との全面合併により、経営権が、鹿児島市へ移行
と畜検査業務は、保健所公衆保健課が所管
- 32年 10月 郡元町 2411（現：新栄町 22-34）に、と畜場を移転
- 34年 10月 機構改革により、中央保健所公衆保健課から中央保健所
公衆衛生課へ変更
- 46年 10月 中央保健所公衆衛生課に食肉検査係を新設
- 50年 2月 試験検査室の新設
- 53年 2月 病畜棟(134 m²)新設、検査員事務室（64 m²）を増設
- 平成 4年 4月 食肉検査係から食肉検査課に昇格
- 8年 4月 鹿児島市が中核市へ移行
- 10月 新栄町から下福元町 7852 にと畜場(食肉センター)を移転
- 9年 4月 食肉検査課から食肉衛生検査所に改称
- 12年 4月 機構改革により、環境局中央保健所食肉衛生検査所から
健康福祉局保健所食肉衛生検査所へ変更
- 15年 4月 食肉センターが民営化
- 19年 2月 検査室等の増築

2. 所在地

名 称 鹿児島市食肉衛生検査所（鹿児島食肉センター内）
郵便番号 891-0144
住 所 鹿児島市下福元町7852
電 話 (099) 262-2116
F A X (099) 262-4940

アクセス方法

鉄道を利用

J R鹿児島中央駅より、J R指宿枕崎線・喜入行に乗り換え、J R五位野駅で下車
J R五位野駅から鹿児島食肉センターまでタクシーで約5分、徒歩で約20分

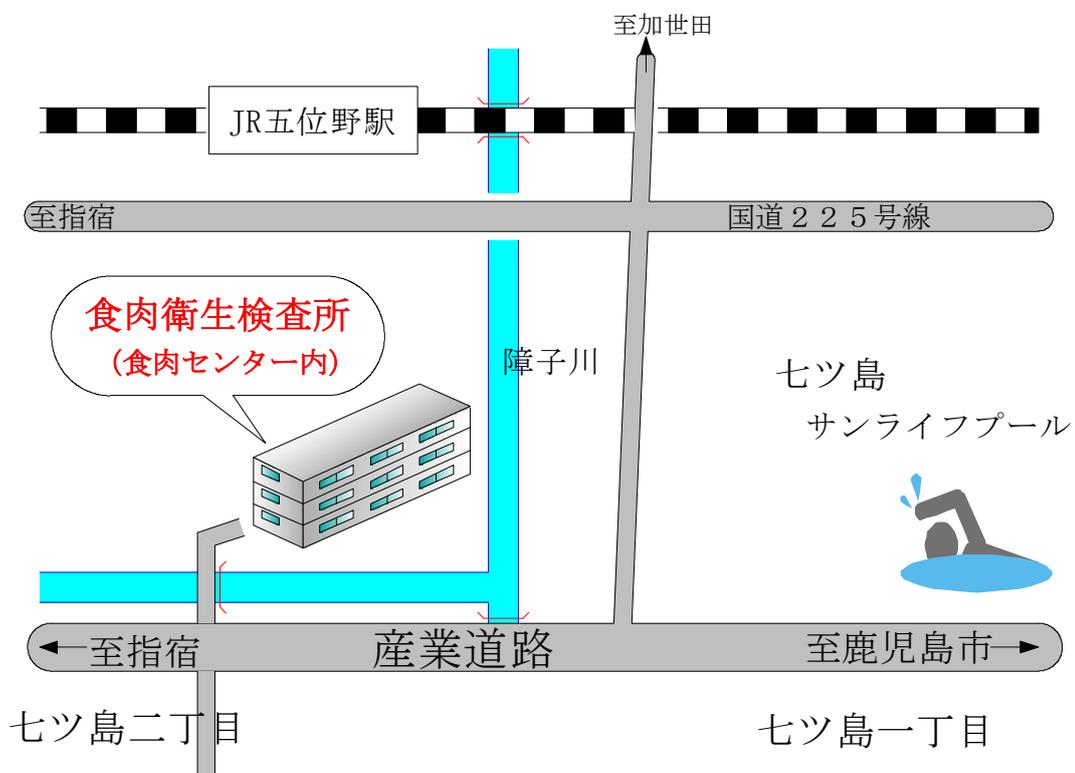
航空を利用

1) 空港よりタクシー利用の場合

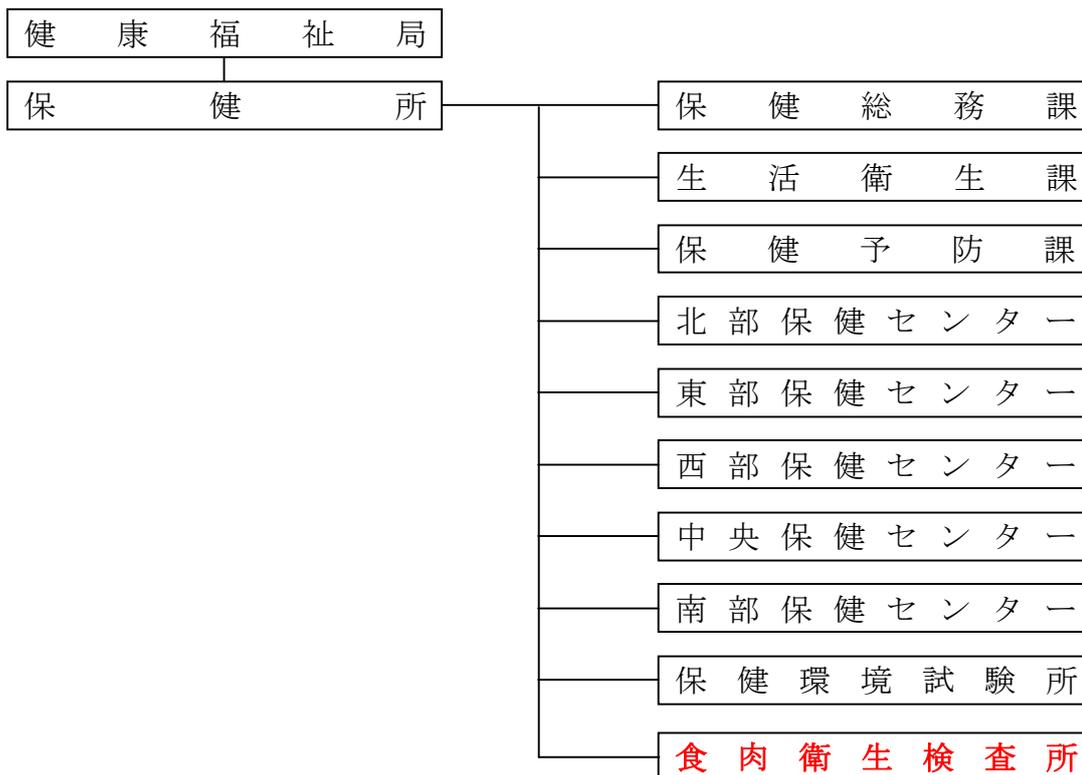
九州自動車道（溝辺鹿児島空港インターチェンジ）から指宿スカイライン（有料道路）を通り谷山インターチェンジを出て、「鹿児島食肉センター」まで約1時間

2) 空港よりバス利用の場合

- ・ 空港より高速バス（直行便）でJ R鹿児島中央駅まで、約40分
- ・ 空港より、高速バス（山川・指宿行）に乗車し、市民体育館前で下車、鹿児島食肉センターまでタクシーで約5分、徒歩で約35分



3. 組織機構



4. 職員構成

26年4月1日現在

職名	所長	主幹	主査	主任	獣医師	主任	嘱託	臨時職員		合計
職種		獣医師				事務	獣医師	補助員	事務	
人数	1名	3名	3名	5名	1名	1名	1名	7名	1名	23名

*延べ2名

5. 事務分掌

○鹿児島市組織及び事務分掌等に関する規則（抜粋）

昭和62年3月31日
規則第22号

第8条 前条に定める課及び係の事務分掌は次のとおりとする。

食肉衛生検査所

- (1) と畜場法に基づくと畜検査及び衛生指導に関すること。
- (2) 食品衛生法に基づく監視指導、収去・検査及び措置に関すること(他の所掌に係るものを除く。)
- (3) 公印の保管に関すること。
- (4) その他所に属する軽易な庶務に関すること。

なお、食鳥検査については、市保健所—生活衛生課—獣疫係が所掌し、検査業務を指定検査機関の公益財団法人鹿児島市獣医公衆衛生協会に委任している。

6. 検査手数料等

(1) と畜検査手数料

(1頭あたりの手数料)

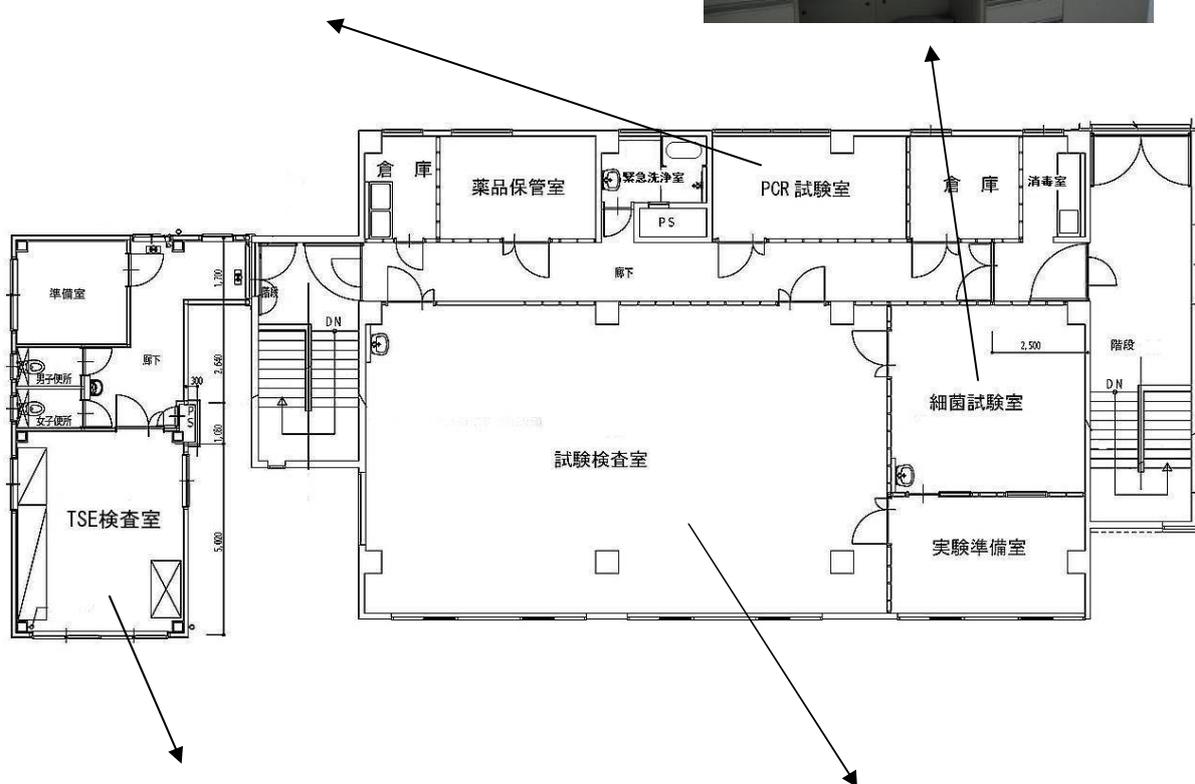
区 分	時間内	時間外
牛・馬	760円	1,520円
子牛・子馬	380円	760円
豚	350円	700円
乳とく、めん羊、山羊	170円	340円
摘 要	平成19年4月1日施行	

(2) と畜場使用料・とさつ解体料 (※平成26年4月1日改正)

(1頭あたりの料金)

区 分			時間内	時間外
と畜場使用料	牛・馬		2,203円	3,304円
	子牛・子馬		1,101円	1,652円
	豚	皮剥ぎ	1,101円	1,652円
		湯剥ぎ	1,242円	
	乳とく、めん羊、山羊		237円	356円
とさつ解体料	牛・馬		5,190円	8,441円
	子牛・子馬		3,198円	6,868円
	豚	普通	692円	3,439円※1
		湯剥ぎ		
	大貫	皮剥ぎ	1,426円※2	4,593円※1
		湯剥ぎ		
	乳とく、めん羊、山羊		1,573円	5,243円
	備 考		※1 手剥ぎの料金 ※2 手剥ぎの場合は、1,845円	

食肉衛生検査所管理棟（3階）



8. 主要検査機器

微生物検査関係	乾熱滅菌器	インキュベーター	試験管ミキサー
	マグネットスターラー	オートクレーブ	実態顕微鏡
	位相差顕微鏡	嫌気培養ジャー	ディープフリーザー
	高速冷却遠心機	ディスカッション顕微鏡	保冷库
	冷蔵ショーケース	バイオクリーンベンチ	試験管攪拌器
	孵卵器	万能シェーカー	低温恒温器
	湯煎器	DNA 増幅装置	紫外線照射装置
	アルミブロック恒温槽	嫌気性培養装置	微量電子天秤
	ミキサー	電気泳動装置	電気泳動ゲル撮影装置
	安全キャビネット	ピペット洗浄器	

理化学検査関係	超音波洗浄機	血液生化学自動分析装置	水分計
	電子分析天秤	高速液体クロマトグラフ	ロータリーエバポレーター
	pH メーター	アスピレーター	振とう器
	卓上型生化学検査システム	超高速ホモジナイザー	

病理検査関係	自動固定包埋装置	病理組織検査用顕微鏡システム	パラフィン包埋ブロック作成装置
	クリオスタットマイクロトーム	組織固定用振とう器	パラフィン伸展器
	マイクロトーム		

T S E 検査関係	マイクロプレートリーダー	試験管ミキサー	組織・細胞破碎装置
	マイクロプレートウォッシャー	インキュベーター	高速冷却遠心機
	安全キャビネット	アルミブロック恒温槽	電子天秤
	保冷库		

第2章

と畜検査業務の概要

第2章 と畜検査業務の概要

1. 食肉衛生検査業務状況

1. と畜検査頭数について

平成 25 年度における、と畜検査頭数は、豚 219,216 頭、牛 18,287 頭（子牛 6 頭を含む）馬及び子馬 0 頭の総数 237,503 頭で前年度に比較して 76,219 頭の減であった。

年間の 1 日あたりの平均と畜検査頭数は、およそ豚 895 頭、牛 74 頭であった。

なお、豚の処理方法は、皮剥と湯剥の 2 方式を 1 ラインの検査台で交互に行っている。検査結果は、タッチパネルで入力し、コンピュータシステムにより各種集計が行われる。

獣畜の年度別と畜検査頭数、牛と豚の年度別と畜検査頭数の推移を参照 (P10)

2. と畜検査頭数の推移について

過去 10 年間の推移をみると牛、豚ともに前半は、増加傾向、後半は、横ばいであったが、平成 25 年度は、減少した。

獣畜の年度別と畜検査頭数、牛と豚の年度別と畜検査頭数の推移を参照 (P10)

月別の検査頭数については、豚で、約 18,300 頭/月、牛で、約 1,520 頭/月であった。

獣畜の月別と畜検査頭数、牛と豚の月別と畜検査頭数の推移を参照 (P11)

3. 家畜の出荷地別状況について

豚は、県内全域 (86.7%) 及び宮崎県 (10.7%) から搬入されている。県内でみると川辺地区、肝属地区の二つの地区が、48.7%を占めている。

牛についても同様で、県内全域 (76.4%) 及び宮崎県 (15.5%) から搬入されており、県内では、肝属、川辺、薩摩地区で 41.5%を占めている。

牛と豚の出荷地別と畜検査頭数を参照 (P12)

4. と畜検査による廃棄措置状況について

と畜検査の結果による処分頭数は、203,662 頭（豚、牛を含む）であった。

① 全部廃棄

全部廃棄頭数は 671 頭で、畜種別では、豚が 563 頭、牛が 108 頭（子牛を含む）であった。

豚の原因別の上位は、膿毒症 (196)、豚丹毒 (131)、水腫 (104 頭)、であり、牛は、牛白血病※ (49 頭)、全身性の腫瘍 (15 頭)、敗血症 (14 頭) であった。

※牛白血病は、P13 の表中では「その他」に分類。

② 一部廃棄

枝肉の一部、内臓廃棄したものは、総数 202,991 頭で、豚 191,544 頭、牛 11,447 頭（子牛を含む）であった。

原因別は、豚、牛ともに炎症による廃棄が最も多かった。

③ とさつ禁止

実績なし。

獣畜のとさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数を参照 (P13)

5. 切迫とさつについて

平成3年度以降実績なし。

6. 牛と豚の枝肉の拭き取り検査について

牛枝肉 95検体、豚枝肉 95検体の拭き取り検査を行い、枝肉の微生物汚染の実態を調査し衛生指導の資料として活用した。

牛と豚の枝肉の拭き取り検査を参照 (P16)

7. 抗菌性物質の残留検査状況について

① 残留抗菌性物質の疑いによる検査

牛 267 頭（子牛を含む）、豚 429 頭の計 696 頭を実施した結果、残留抗菌性物質は、牛 2 頭、豚 4 頭において、枝肉より検出され、自主廃棄となった。

② 疾病保留による残留検査

牛 132 頭（子牛を含む）、豚 813 頭の計 945 頭を実施した結果、残留抗菌性物質は、豚 1 頭において腎臓から検出された。

③ モニタリング検査

牛 10 頭、豚 23 頭の計 33 頭について、枝肉 11 項目、腎臓 4 項目の検査を実施した結果、残留抗菌性物質は、検出されなかった。

抗菌性物質の残留検査を参照 (P16)

8. 伝達性海綿状脳症（TSE）の検査状況について

平成13年10月18日から食肉の安全確保と国民の不安を解消するため牛についてと畜場法に基づき、牛のTSE スクリーニング検査を実施している。

平成25年度の牛のTSE スクリーニング検査結果は、すべて陰性であった。

なお、平成25年7月1日より、検査対象が48か月齢を超える牛となった。

牛の伝達性海綿状脳症の検査状況を参照 (P17)

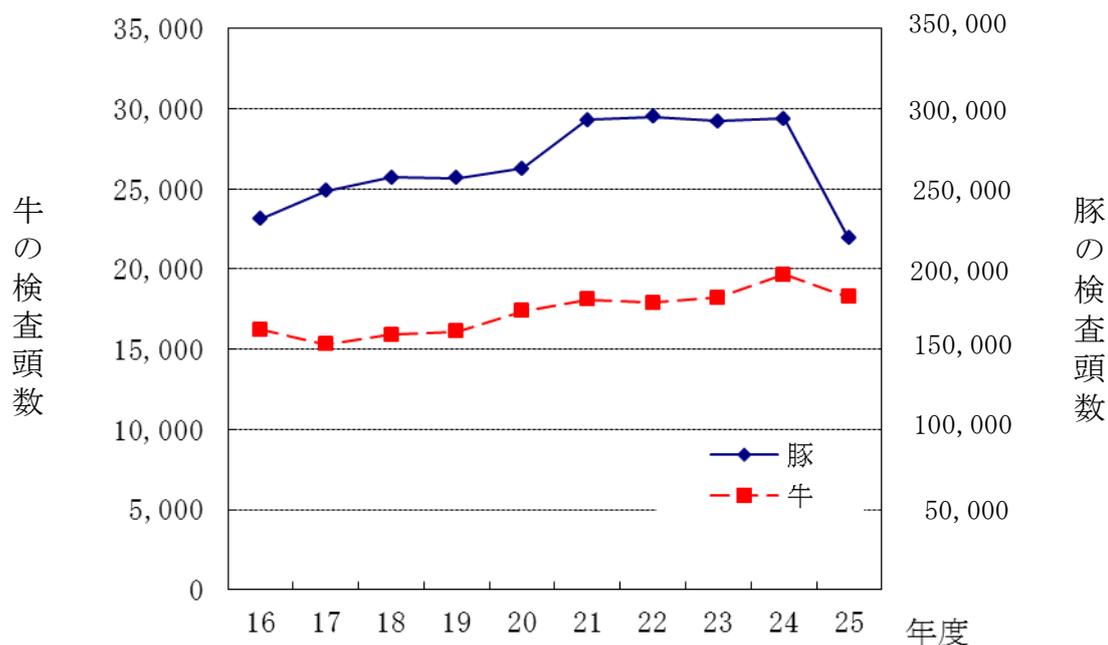
2. と畜検査頭数

(1) 獣畜の年度別と畜検査頭数

年度	牛		子牛		乳とく		馬		子馬		めん羊・山羊		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
16	16,204	39	15	1	0	0	34	1	0	0	58	0	231,278	29	247,659
17	15,260	66	27	1	0	0	23	3	0	0	0	0	248,722	21	264,123
18	15,817	104	22	1	0	0	14	0	0	0	0	0	257,239	38	273,235
19	16,009	85	18	2	0	0	15	1	0	0	0	0	256,830	42	273,002
20	17,278	109	25	2	0	0	18	0	0	0	0	0	262,888	31	280,351
21	17,993	100	39	2	0	0	12	1	0	0	0	0	293,171	26	311,344
22	17,780	135	63	2	0	0	5	0	0	0	0	0	294,839	32	312,856
23	18,126	112	17	5	0	0	3	0	0	0	0	0	292,039	26	310,328
24	19,543	105	20	3	0	0	2	0	0	0	0	0	294,017	32	313,722
25	18,191	90	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219,180	36	237,503
	18,281		6		0		0		0		0		219,216		

注) 乳とくは生後1ヶ月未満の子牛、子牛・子馬は生後1年未満の牛・馬をいう。

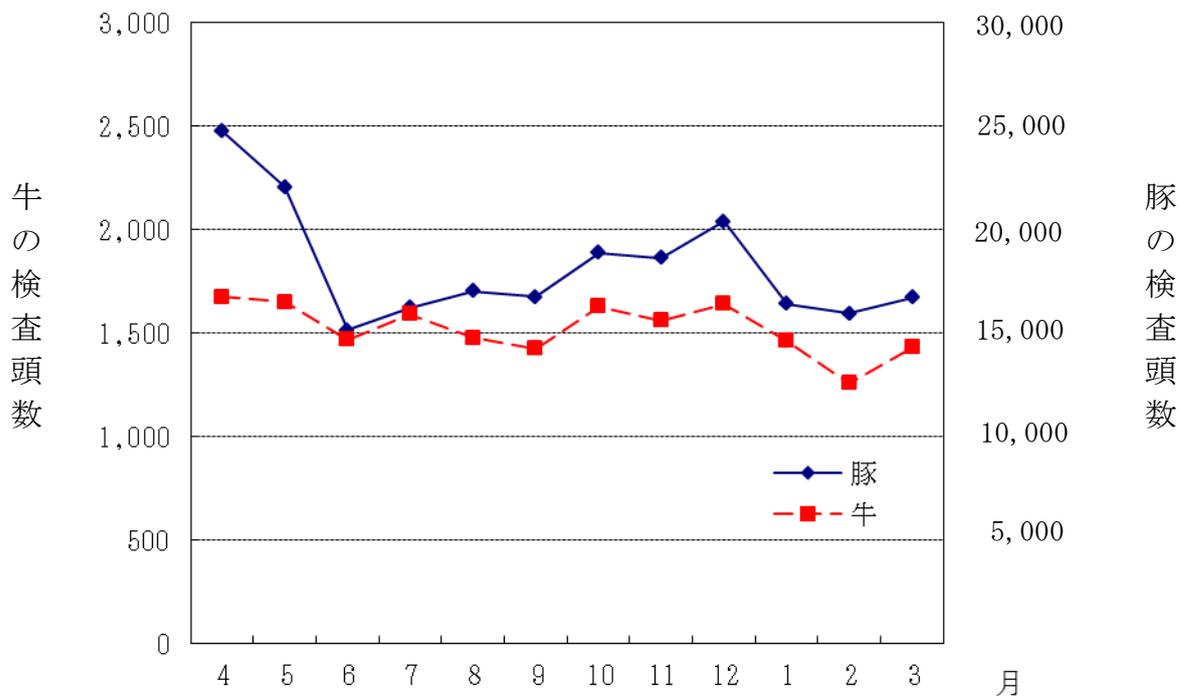
(2) 牛と豚の年度別と畜検査頭数の推移



(3) 獣畜の月別と畜検査頭数

月	牛		子牛		馬		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
4	1,668	9	0	0	0	0	24,797	6	26,480
5	1,647	5	0	0	0	0	22,080	5	23,737
6	1,458	11	1	0	0	0	15,159	1	16,630
7	1,588	5	0	0	0	0	16,246	2	17,841
8	1,470	8	1	0	0	0	17,038	1	18,518
9	1,414	12	0	0	0	0	16,753	4	18,183
10	1,623	6	1	0	0	0	18,886	2	20,518
11	1,553	7	1	0	0	0	18,659	3	20,223
12	1,639	4	1	0	0	0	20,415	3	22,062
1	1,456	6	0	0	0	0	16,438	2	17,902
2	1,254	7	0	0	0	0	15,969	2	17,232
3	1,421	10	1	0	0	0	16,740	5	18,177
合計	18,191	90	6	0	0	0	219,180	36	237,503

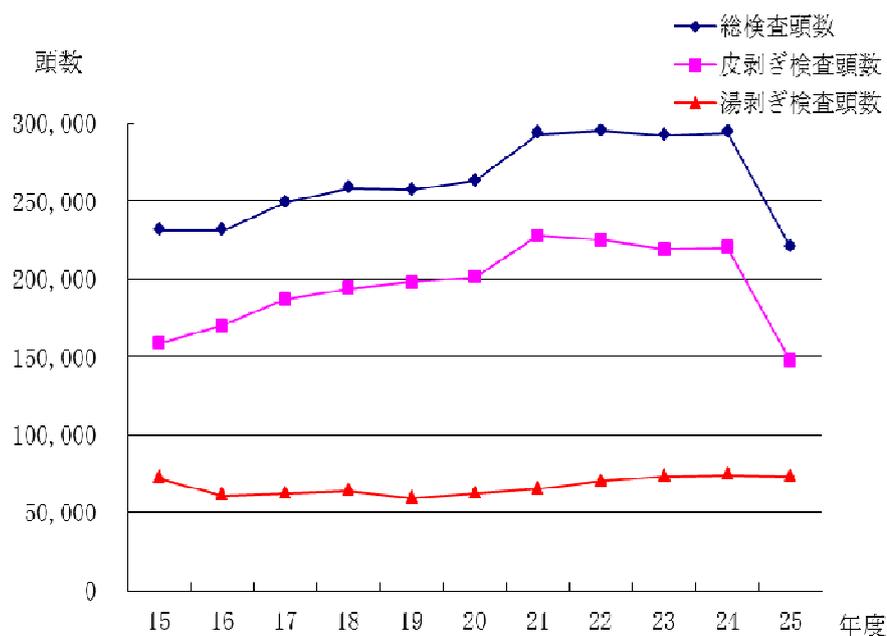
(4) 牛と豚の月別と畜検査頭数の推移



(5) 牛と豚の出荷地別と畜検査頭数

	牛の出荷地別							豚の出荷地別	
	和牛	乳牛		その他	子牛	総数	%	豚	%
		雌	去勢						
鹿児島地区	426	11		2		439	2.4	890	0.4
指宿地区	836	5	164	432	1	1,438	7.9	9,444	4.3
川辺地区	2,058	93	56	11	1	2,219	12.1	65,118	29.7
日置地区	946	30		1	1	978	5.3	4	0.0
薩摩地区	712	11	1	843	2	1,569	8.6	20,856	9.5
出水地区	858	23				881	4.8	3,777	1.7
伊佐地区	306	6		475		787	4.3	17,969	8.2
始良地区	715	138	2	68		923	5.0	10,510	4.8
曾於地区	613	44		3		660	3.6	19,558	8.9
肝属地区	3,714	85		1	1	3,801	20.8	41,650	19.0
熊毛地区	169	47				216	1.2	229	0.1
大島地区	76					76	0.4	192	0.1
宮崎県	2,231	606		3		2,840	15.5	23,551	10.7
熊本県	211	231	8			450	2.5	4,852	2.2
その他	803	200	1	6		1,010	5.5	616	0.3
計	14,674	1,530	232	1,845	6	18,287	100	219,216	100

(6) 湯剥ぎ、皮剥ぎの推移



(2) 牛と豚の年度別全部廃棄頭数の推移

疾病\ 年度・畜種	19		20		21		22		23		24		25	
	牛	豚	牛	豚	牛	豚	牛	豚	牛	豚	牛	豚	牛	豚
膿毒症	5	92	5	103	8	134	7	212	3	224	7	261	8	196
敗血症	8	28	8	35	5	30	13	88	7	80	10	167	15	87
尿管毒症	6	14	11	12	6	14	14	14	17	17	8	20	3	11
豚丹毒		9		21		33		39		78		80		131
高度の黄疸	4	4	2	3	5	3	4	3	8	4	4	5	6	2
高度の水腫	16	132	36	129	18	111	22	150	21	200	26	256	11	104
腫瘍	18	6	23	14	34	47	23	29	9	21	13	24	15	8
炎症又は炎症産物														
変性又は萎縮		100		64		72	1	56		56		34		24
その他				2					31		41		50	
計	57	385	85	383	76	444	84	591	96	680	109	847	108	563

(3) 牛と豚の全部廃棄等の月別発生頭数

月	畜種	疾病別全部廃棄頭数											月別一部廃棄頭数	とさつ禁止
		豚丹毒	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	産炎物に又よる汚染症	変性又は萎縮	その他	合計		
4	豚	16	15	14	2	1	15	1		4		68	22,362	
	牛		1		1		1				3	6	975	
5	豚	5	10	6	1		8	3				33	19,035	
	牛		1	2			2	3			9	17	1,025	
6	豚	14	9	1			7	3		4		38	13,104	
	牛		1	2(1)		2					3	8(1)	869	
7	豚	38	11	7	2							58	14,323	
	牛							1			5	6	972	
8	豚	10	24	9	1		7	1		2		54	15,673	
	牛		1(1)	1	1	1		1			4	9(1)	942	
9	豚	3	26	5	1		3			1		39	15,400	
	牛			2				3			1	6	889	
10	豚	15	26	5			7			3		56	16,380	
	牛		1	1	1		1	1			8	13	978(1)	
11	豚	11	18	7	2		7			3		48	16,820	
	牛		1	3		1	3(1)	1			4	13(1)	950	
12	豚	7	27	8	1		12					55	18,214	
	牛					1	1	1			4	7	1,074	
1	豚	1	8	5	1	1	22			3		41	14,893	
	牛		1	1			1	3			5	11	996	
2	豚	5	11	9			8			3		36	14,382	
	牛		1	2			1				2	6	859	
3	豚	6	11	11			8			1		37	10,958	
	牛			1		1	1(1)	1			2	6(1)	918	
合計	豚	131	196	87	11	2	104	8		24		563	191,544	
	牛		8(1)	15(1)	3	6	11(2)	15			50	108(4)	11,447(1)	

注) () 内の数字は、子牛の頭数を再掲

4. 精密検査実施状況

(1) 牛と豚の枝肉の拭き取り検査

項目 種別	一般細菌数	大腸菌群数	O157	サルモネラ	黄色ブドウ球菌
牛	95	95	55	55	55
豚	95	95		55	55
計	190	190	55	110	110

注) 検体数を表示

(2) 抗菌性物質の残留検査

① 抗菌性物質の残留のみを疑い検査した結果

区分	畜種	牛	とく	豚	計
検査頭数		265	2	429	696
検査結果 (陽性)	頭数	2	0	11	13
	枝肉	2	0	4	6
	肝臓	2	0	2	4
	腎臓	2	0	11	13
処分状況	食品衛生法適用	0	0	0	0
備考	自主廃棄	2	0	4	6

② 疾病による保留で抗菌性物質の残留検査をした結果

区分	畜種	牛	とく	豚	計
検査頭数		128	4	813	945
検査結果 (陽性)	頭数	0	0	1	1
	枝肉	0	0	0	0
	肝臓	0	0	0	0
	腎臓	0	0	1	1
処分状況 (検査結果が陽性の 症例について)	食品衛生法適用	0	0	0	0
	他の疾病名 で全部廃	0	0	0	0
備考	自主廃棄	0	0	0	0

③ 厚生労働省モニタリング検査結果

食品	検査検体数	検査項目数※	検査結果
牛の筋肉	10	11 (※1)	全て基準以下
牛の腎臓	10	4 (※2)	
豚の筋肉	23	11 (※1)	
豚の腎臓	23	4 (※2)	

※1 テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系、スルファマイジン、スルフアモキシム、スルフジメキシム、チンフェコロル、オキサリム、トリメプリム、ピリメタシ

※2 テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系

(3) 牛の伝達性海綿状脳症の検査

		合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	21年度	18,134	1,543	1,448	1,547	1,600	1,420	1,574	1,453	1,582	1,685	1,359	1,398	1,525
	22年度	17,980	1,585	1,475	1,442	1,524	1,478	1,582	1,512	1,662	1,748	1,277	1,382	1,313
	23年度	18,260	1,363	1,470	1,348	1,473	1,616	1,516	1,519	1,654	1,792	1,455	1,438	1,616
	24年度	19,671	1,626	1,742	1,635	1,606	1,719	1,524	1,727	1,678	1,774	1,597	1,464	1,579
	25年度	7,965	1,677	1,653	1,469	366	370	371	393	283	342	353	350	338
検査結果	陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	陰性	7,965	1,677	1,653	1,469	366	370	371	393	283	342	353	350	338
月齢別内訳	48ヶ月齢超	4,381	470	437	308	366	370	371	393	283	342	353	350	338
	30ヶ月齢以上	429	179	140	110									
	30ヶ月齢未満	3,155	1,028	1,076	1,051									
	21ヶ月齢未満 (再掲)	65	27	14	24									

5. その他

(1) 衛生講習会

食肉センターにおけると畜解体及び食肉処理等の従事者を対象とした講習会を実施しました。

講習会内容	対象者	受講者数	実施時期
と畜場の衛生（牛）	解体従事者	17名	25年6月
と畜場の衛生（豚）	解体従事者	26名	25年7月

(2) 普及啓発

- ・保健所食品衛生月間行事（25年8月）に参加し、「パネル展示」を行いました。
- ・「安心して食べられる食肉」をテーマに、「市政出前トーク」を1回行いました。

第 3 章

付 表

第3章 付 表

1. 調査・研究部会のテーマ

本市では、鹿児島県食肉衛生検査所協議会の各部会に担当者が参加し、各部会ごとのテーマについて、調査・研究・情報交換をしている。

各部会のテーマ

- (1) 病 理 部 会 「①『何だろう?』と題したいアトラスの作成
②免疫染色マニュアルの作成」
- (2) 理化学部会 「食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価
ガイドラインへの対応」
- (3) 微生物部会 「牛の肝臓・胆嚢及び糞便における腸管出血性大腸菌及び
カンピロバクターの保菌状況調査」

2. 職員の技術研修会等

- | | |
|---------------------------|------------|
| (1) 県下食肉衛生検査所協議会微生物部会 | 県末吉食肉衛生検査所 |
| (2) 県下食肉衛生検査所協議会病理部会 | 県末吉食肉衛生検査所 |
| (3) 県下食肉衛生検査所協議会理化学部会 | 県末吉食肉衛生検査所 |
| (4) 食肉及び食鳥衛生技術研修会並びに衛生発表会 | 東京都 |
| (5) 全国食肉衛生検査所協議会微生物学部会 | 茨城県土浦市 |
| (6) 全国食肉衛生検査所協議会病理学部会 | 相模原市 |
| (7) 全国食肉衛生検査所協議会理化学研修会 | 千葉市 |
| (8) 全国食肉衛生検査所所長会議及び総会 | 岐阜市 |
| (9) 九州地区食肉衛生検査所所長会議及び総会 | 熊本市 |
| (10) 日本獣医師会学会年次大会 | 千葉市 |
| (11) 食肉衛生検査研修 | 埼玉県和光市 |

3. 鹿児島食肉センターの概要

(1) 敷地面積 29,846.61 m² (9,044 坪)

(2) 建築面積 11,076.96 m²

(3) 延床面積 14,461.16 m²

本館棟 12,353.78 m²

(m²)

		小計	大動物	小動物	共用
とさつ解体施設	係留バース				1,740
	係留施設		369	958	
	と室・解体室	7,233	323	926	
	内臓処理室 休憩室・工作室・廊下等		144	264	2,509
冷蔵室		462	205	257	
部分肉処理加工施設		3,738	929	1,985	824
共用施設 (冷凍機械室、医務室等)		920			920
計		12,353	1,670	4,690	5,993

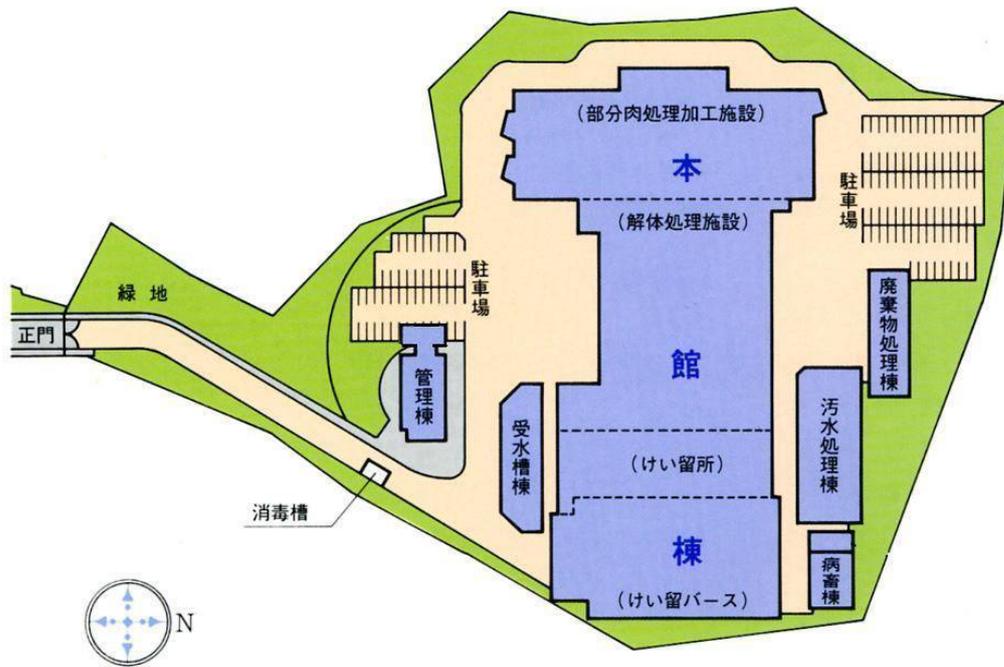
管理棟 967.60 m²
 廃棄物処理棟 420.00 m²
 汚水処理棟 381.72 m²

病畜棟 262.50 m²
 受水槽棟 75.56 m²

(4) 処理能力

	大動物	小動物
けい留所収容	57頭	1,000頭
とさつ・解体	80頭/日	1,300頭/日
懸肉・予冷	—	1,300頭/日
冷却・冷蔵	200頭	1,900頭 (部分肉処理加工施設含む)
部分肉処理加工	45頭/日	400頭/日

施設配置図



平成26年度 業務概要

平成26年11月 発行

編集発行 鹿児島市食肉衛生検査所

〒891-0144

鹿児島市下福元町7,852

TEL 099(262)2116

FAX 099(262)4940